

「現代の国語」シラバス

学科	総合学科	学年	1 年	類型		組	7 組	単位数	2
使用教科書	新現代の国語 改訂版 (三省堂)								
副教材等	常用漢字ダブルクリア (尚文出版)								

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現することができる。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を5段階の評定に総括する。

[illegible]

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	1 わかり合うために 「届く言葉、届かない言葉」 2 確かな情報を伝えるために 「ひとまず、信じない」 3 情報を生かすために 「人が死なない防災」	・本文を読み、概要を把握する。 ・三つの事例を中心に三段落に分ける。 ・主張と事例の関係を捉え直す。 ・本文を読み、概要を把握する。 ・「ひとまず、信じない」とあるが、なぜ「ひとまず」なのか説明する。 ・情報と適切につきあう方法について考える。 ・本文を読み、概要を把握する。 ・「正常化の偏見」と「認知不協和」について、自分の体験をもとに説明する。 ・筆者の考える、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 ・『逃げる住民』をどうやってつくるのか」という筆者の問いかけに対するあなたの考えを提案する。	
二 学 期	4 よりよい読み手になるために 「水の東西」 「コインは円形か」 5 場に応じて伝えるために 「読み比べる一海ガメの無念」 6 説得力を高めるために 「まるごとのあなたを」	・この文章で筆者が、何と何を、どのように比較しているかに注意して読む。 ・それぞれの部分で、筆者の主張がどのような事実に基づいているかを整理・分析する。 ・本文を読み、概要を把握する。 ・文章中から「問題」「結論」「理由」の要素を読み取り、筆者の主張をつかむ。 ・筆者の示す「理由」は、どのような事例に支えられているか、まとめる。 ・AとBの文章を読み比べ、それぞれの文章の伝えたいことはどんなことか、各自で考える。 ・それぞれの文章の特徴を、構成と表現に着目して比較して表などにまとめる。 ・本文を読み、概要を把握する。 ・本文をもとに筆者の体験の意識をまとめる。 ・本文中の表現が意味する内容を明らかにして、タイトルに込められた筆者の考えを読み取る。	
三 学 期	7 考えを共有していくために 「最短ルートは店の中」 8 よりよい書き手になるために 「ありのままの世界は見えない」 「ものとことば」	・教科書の図の地点AからBに最も早くたどり着くにはどのような道順で行けばよいか、隣の人に説明する。 ・本文中の表現を手がかりに筆者の考えをまとめる。 ・教科書の絵が何の絵に見えたか、隣の人に説明し合い、2通りの見方があることを認識する。 ・「ありのままの世界は見えない」で提示されている筆者の考えを、事例をもとに整理する。 ・「ものとことば」を読み、「ありのままの世界は見えない」と読み比べ、共通しているテーマはどのようなことか見つける。	

備考 (1)～(6)まで、全ての単元において評価項目として用いる。